

第12回 紀の川市子ども・子育て会議  
議事概要

日 時	平成31年2月21日(木) 午前10:00~11:20		
場 所	紀の川市役所 2階 市民協働スペース		
出席者	(順不同敬称略) <b>【委員】</b> 金川委員(会長)、橋本委員(副会長)、内山委員、矢野委員、米田委員、 忠岡委員、木村委員、淡路委員、山本委員、真砂委員、長岡委員、 塚田委員、山野委員  <b>【事務局】</b> 若林、榎戸、嶋田、前田、富尾、坂本、楠井、西 (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 中嶋		
欠席者	4名	傍聴者	なし
議 題	(1) 新年度特定教育・保育施設の利用定員について (2) 第2期紀の川市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う 市民ニーズ調査の結果報告について		
資 料	<b>【A】</b> 新年度特定教育・保育施設の利用定員の状況 <b>【B】</b> 紀の川市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査 調査結果の概要 <b>【1】</b> 紀の川市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査 結果報告書 <b>【2】</b> 紀の川市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査 自由回答のまとめ <b>【3】</b> 「新・放課後子ども総合プラン」に基づく放課後児童健全育成事業に係る「量の見込み」の算出等の考え方について		

## 1. 開 会

## 2. あいさつ

金川会長 学童保育施設の新築移転が叶った。記念誌の後ろにあるメッセージを見ると、みなさんが楽しみにされているのが分かり、温かい気持ちになった。

今日はニーズ調査の結果が出たので、この会議で内容を確認する。この結果は、今後のニーズ量推計に活用する。

## 3. 議事

<議題(1) 新年度特定教育・保育施設の利用定員の状況について、【資料A】に基づ

## き、事務局より説明＞

金川会長 今年度は、待機児童の状況はいかがか。

事務局 現在、0歳児において約10名の待機児童が発生している。定員の増加を図っているが、保育士不足で困難な状況となっている。保育士不足の解消に努めていく。

31年度の入所申し込みについては、今のところ待機児童は発生していない。ただ1歳児の申し込みが多く、一部で選考となった園がある。0歳児はほぼ全員が、希望の保育所に入所可能となっている。1歳児は今後、待機児童が発生する可能性があるため、保育士の確保に努める。

学童保育については、子どもの数が減る中でも利用者が増えており、定員を増やして対応している。施設の規模や低学年の利用者の多さにより、一部では高学年の待機児童が発生している。

金川会長 私立幼稚園・認可保育所の入所申し込みについて、年度中の予想はいかがか。

事務局 例年、0歳児は8月・9月になると、どんどん申し込みが増えてきて、正月前後に待機児童が発生する。それに向けて、保育士の確保をしたいと考えている。

金川会長 事業所による保育施設はどうか。

事務局 事業所による保育所が1か所あり、そちらへの案内も可能だが、今のところ希望は出ていない。

金川会長 保育士の確保が難しい中、事業所の保育所設置を支援する予定はあるか。

事務局 特に予定はない。従来から病院等で事業所内保育を行っているところもあるが、あくまで事業所内での需要に対応するという形で、地域枠の設定はない。

金川会長 学童は高学年で待機児童がいるが、この状況は、70年代・80年代の保育所の状況と似ている。70年代・80年代は保育所がどんどんつくられ、それによってニーズも喚起された。それと同様、学童保育施設の整備が進むと、それまであきらめていた人も利用したいと考え、ニーズが増える。学童保育の施設整備はどうか。

事務局 定員枠の少ない施設1か所の拡充を考えている。残りの施設はここ数年、拡充

に努めてきた。

金川会長 現在、一部の地域で待機児童が発生しているが、少数とはいえ毎年この状況が続くと、地域によっては不満が出てくるかもしれない。

事務局 打田地区は今後、子どもが増える傾向にあるため、重点的に拡充した。他の地域は、爆発的に子どもが増える見込みはない。

### <議題(2) 第2期紀の川市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う市民ニーズ調査の結果報告について、【資料B】に基づき、事務局より説明>

金川会長 内容が子育てに関することで関心が高いせいか、郵送調査としては回収率が高い方だと思う。直接配布・回収ができれば回収率が7割近くになる可能性がある。今後の課題としていただきたい。現状でも統計的には有意なので、傾向は読み取れると思う。

内山委員 【資料B】の5ページに、土曜日や日曜日・祝日の教育・保育サービスのニーズが高まっているとあるが、幼稚園や保育所などで働いている人のことも考えてほしい、本来、子どもは家庭で親の愛情を受けて育てていくことが必要で、忙しいから預かってくれというのも、どうかと思う。

金川委員 幼稚園や保育所などで働いている人にも家庭があり、それを犠牲にして土曜日や休日に出勤してもらうのは負担が大きい。難しいが、調整の方法を考えていかなければいけない。ファミリー・サポート・センターも利用料がかかるので、パートタイム勤務の家庭では利用が難しい。

所得のボリュームゾーンをみると、決して裕福なわけではない。この調査の結果から相対的貧困率を出すことができるので、算出をお願いしたい。

忠岡委員 【資料B】の4ページに、(平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況・利用希望について)「保育所では、公立の認可保育所の人気が高くなっている」とあるが、公立の保育所があるのは打田と貴志川地域だけ。当然、住んでいる地域の保育所に行きたいだろうから、この分析の言い方でよいのか。

金川委員 現在どんなサービスを利用している人が、何を希望しているかということと、地区別の傾向がわかるようなクロス集計をお願いしたい。

他に気づいた点として、小学生の児童がいる世帯の子育て支援事業の認知度と利用意向では、【資料B】に「事業の周知が必要」とあるが、小学生の特性を考えたら、こども課の家庭児童相談室より、スクールカウンセラーに距離が近い。家庭児童相談室の周知が必要と結論付けるより、認知度が高いスクールカウンセラーやファミリー・サポート・センターなどから、福祉系につながるようにすればよい。その辺りの連携がとれているほうが重要だという認識を持ってほしい。

また、自由記述の回答が積極的で、保護者の関心度や真剣度が高いと感じた。すべてを施策に反映させるのは難しいだろうが、もっともだと思われるものは、改善していただきたい。

矢野委員 お母さんとしては、同じ悩みを持つ人に打ち明けて、気持ちを楽にしたいという思いがある。また、同じ年齢の子どもを持つ友達を増やしたいという人もいる。人によって、需要が違う。子どもをただ預かるのではなく、需要に応じて、子育て支援策を分野分けして周知してもらえるとありがたい。母親にはピンポイントで必要な情報がある。

内山委員 学童保育に、付加価値を付ければよい。

矢野委員 親育ても大切だ。

金川会長 紀の川市は、トリプルP（前向き子育てプログラム）を導入している。トリプルPはお母さんにとって、よい学びと仲間づくりの機会になるが、実施状況はいかがか。

事務局 13組の定員枠で毎年実施している。トリプルPについて、周知のための研修も実施した。現状、募集をしても利用者が定員を超えることはない。

金川委員 和歌山市内の認定こども園で、保護者会の後にトリプルPを実施しているところがある。そうすることで、伝わりやすくなる。実際に体験して、気づきを得る親もいる。いろいろな機会で見学をつくらせていただきたい。

## 5. その他

事務局 この後、新築移転した学童保育施設の見学に向かいたい。次回の会議は、7月ごろを予定している。

橋本副会長 アンケート調査でたくさんのご意見をいただいた。本市の子育て環境について満足度が高まっているが、一方で若い人が残ってくれないという現実もある。課題を認識して、子育てがしやすく、若い人に定着していただけるような政策を考えていきたい。引き続き、ご意見をお聞かせいただきたい。1年間ありがとうございました。

## 6. 閉 会